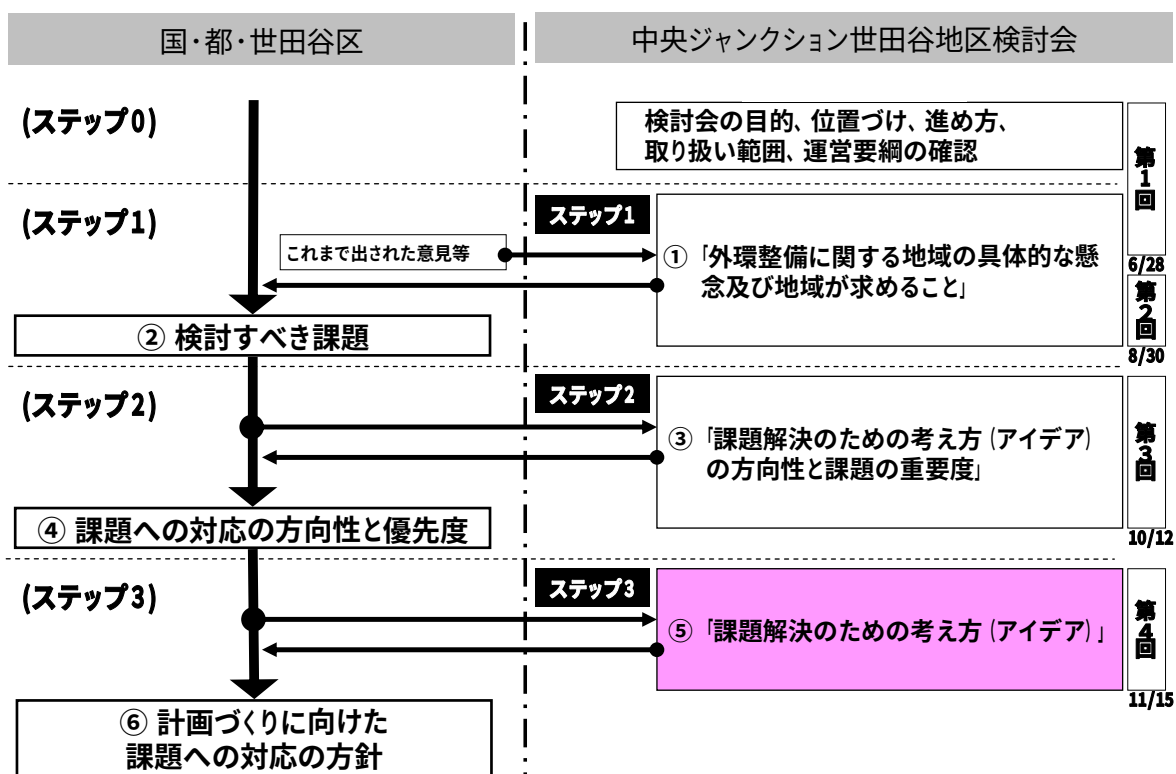


③ ステップ3

課題解決のための考え方（アイデア）

- ・ 課題解決のための具体的な考え方（アイデア）等を住民の視点でまとめたものです。



中央ジャンクション世田谷地区検討会

課題解決のための考え方(アイデア)

【本資料について】

- ・本資料は、中央ジャンクション世田谷地区検討会において、ステップ3でのメンバーの議論の成果です。
- ・課題解決のためのアイデアを、グループ毎に掲載しました。
- ・対応する課題ごとにアイデアを整理し、さらに「計画内容」に関するアイデアと「進め方」に関するアイデアに大きく分類しました。
- ・「計画内容」に関するアイデアは、トンネル部、ジャンクション部、環境施設帯、換気所、周辺部、にさらに分類し、記載しました。
- ・また、「進め方」に関するアイデアは、計画、調査、工事、管理、PI、その他に分類し、記載しました。

1. 交通（地区交通）の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

- ・吉祥寺通りの分断による不便を解消し、バスの通行ができるようにするために、現況道路の幅員を拡幅してほしい。また、自転車・歩行者のアクセス動線を確保してほしい。
- ・外環境界部にある土地は接続道路がなく不便になる。また現在、細い生活道路の行き来がしにくいので、幅員が十分な道路を造ってほしい。
- ・三鷹都市計画道路 3・4・11 号線は換気所の影響で、オーバーパス部分が曲線になっている。生活に困るので三鷹都市計画道路 3・4・11 号線はまっすぐな道路にしてほしい。
- ・換気所を移動することにより、三鷹都市計画道路 3・4・11 号線のオーバーパス部分を直線にすることができる。
- ・東八道路、東八 IC を作ったら、車の通行量が増えるので、都市計画道路補助 217 号線を早期につくる必要があるのではないかな。
- ・都市計画道路補助 219 号線のルートが烏山通りに接続するように変更すると T 字の交差点ができ、烏山通りの交通量が増えてしまう。また、交差点の角度の問題はあるが、都市計画道路補助 219 号線は中央道側道に接続した方がいい。
- ・三鷹都市計画道路 3・4・11 号線の中央 JCT 交差点は直線にできないのか。
- ・三鷹都市計画道路 3・4・11 号線のオーバーパス部分の S 字カーブを直線化してほしい。
- ・生活道路は傘を差して歩く人と自動車が安全に歩くことができるためには 4 メートルでは充分ではない。
- ・生活道路に車が通行させたくない人もいるが、火災時などを想定すると車が通行できないのは問題である。
- ・地区内の生活道路は、車の交互通行、火災時の緊急車両の通行を可能にするために幅員 6 メートルが必要である。

2. 交通（幹線交通）の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

- ・東八 IC ができることにより、烏山通りの通行量が増えることが予想されるが、幅員が狭く、信号が多いために、渋滞が起こるのではないかな。烏山通りを再整備してほしい。
- ・烏山通りは現状の幅員では車の通行量をさばくことができない。東八 IC から甲州街道に行くために烏山通りを通る。吉祥寺通りと甲州街道の交差点は右折する信号が短いので抜けることができない。烏山通りは、右折レーンの整備と現状幅員の拡幅が必要である。
- ・烏山通り、吉祥寺通りと甲州街道の交差点は、右折レーンがない。交差点を拡幅して、右折レーンをつくるなどの対応が必要である。

- ・全体の道路ネットワークの中での都市計画道路補助 219 号線は必要性が疑問。外環整備に伴い、都市計画道路補助 219 号線などの道路について、必要性を再考してほしい。
- ・吉祥寺通りの代替として、都市計画道路補助 219 号線が整備されることを心配している。三鷹都市計画道路 3・4・3 号線を整備し、あとは中川遊歩道沿いに道をつくれれば充分である。
- ・環境施設帯に側道をつくれれば、都市計画道路補助 219 号線を整備する必要はない。
- ・都市計画道路補助 219 号線と烏山通り・中央自動車道の側道との交差点は鋭角に交差する危険な交差点になることにより、交通事故や大渋滞が発生することを懸念している。都市計画道路の計画変更をしてほしい。
- ・日本女子体育大学の敷地が都市計画道路補助 219 号線整備により、4 分割されてしまう。代替地による補償ではなく、都市計画道路補助 219 号線を廃止してほしい。都市計画道路補助 219 号線が整備される場合には、交通の危険がある。また、三角形の敷地が残ってしまうので区道を廃止するなどの対応をしてほしい。
- ・東八 IC から降りた車により烏山通りの負担が大きくなる、東八 IC から降りた車はなるべく東八道路を通ってもらえるようにできないかな。
- ・吉祥寺通りの拡幅整備。
- ・東八 IC ができると烏山通りや地域内の裏道が車でいっぱいになってしまうので、地域全体の基盤整備が必要である。

3. 交通（広域交通）の課題に対応するためのアイデア

管理の進め方に関するアイデア

- ・外環から中央自動車道高井戸 IC 方面に行く場合の通行料を高く設定すると、東八 IC から出る車が増えて、烏山通りが混雑するのではないかな。東八 IC から降りないように情報提供する必要がある。

4. 環境（大気質）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・中央 JCT 料金所職員への健康被害に配慮してほしい。
- ・中央 JCT のオープン部分からの騒音悪化を心配している。蓋掛けをできるだけしてほしい。その場合、景観や活用方法も有効なものを期待する。

換気所の計画に関するアイデア

- ・地区内に換気所が 2 か所できることによる環境への影響を懸念している。完全に無害化できる機能を持った換気装置をつけてほしい。
- ・換気所が 2 本あることにより、2 倍の大気質の汚染があるのではないかな。換気所を高くして、大気中に拡散できないかな。

- ・もし換気所が一カ所故障したときにバックアップするために換気所の数を増やす。

PIの進め方に関するアイデア

- ・さまざまな風の条件に対応した排出ガスの拡散シミュレーションをしてほしい。
- ・換気所の高さによる影響の科学的な調査をしてほしい。

5. 環境（緑の量）の課題に対応するためのアイデア

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・環境施設帯の緑地活用をしてほしい。

6. まちづくり（まちづくり全般）の課題に対応するためのアイデア

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・環境施設帯に作る側道は、高速道路側に植樹帯をつくり、歩道には街路樹は必要ない。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・外環が整備されることにより渋滞が解消されて、エネルギーの有効利用につながることを期待する。しかし、排出ガスによる影響を懸念しているので、排出ガス対策をしてほしい。

7. まちづくり（地域分断）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・吉祥寺通りは平面のまま、通行できるように中央 JCT の構造を工夫してほしい。
- ・中央 JCT の構造が複雑であることにより、中央 JCT 内の走行が危険である。また、吉祥寺通りを分断することになる。構造を再考してほしい。
- ・なるべく地域分断をしないことを最優先にした JCT の構造にしてほしい。
- ・JCT を高架構造にすると側道を通すことができる。日陰の問題はない。騒音については防音壁を付けることにより対応できる。美女木 JCT のように信号を付けることにより、全体を小さくできる。排出ガスは構造に関係なく出てしまうので影響はない。東八 IC は、入口からすぐに下り勾配にすることにより、地域分断をふさげるのではないかな。
- ・JCT の構造が複雑すぎる。外環と中央自動車道の出入りの車が全て東八道路に出てしまう。東八 IC の出入口から道路を下げて、橋を架けることにより、地域分断の影響を少なくすることができる。
- ・JCT を高架構造にすることにより、緑や側道をつくってほしい。
- ・地域分断を 100%防ぐことは無理かも知れないが、地域分断を 70%くらいは防げるようにし

ないといけない。

- ・JCT の地下化により、中央道による道路分断も生じる、外環と中央道を一緒に対応してほしい。

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・外環により生活道路が分断されるので利便性を確保するために環境施設帯に側道を作ってほしい。環境施設帯は緑だけでなく、人が通れるようにしてほしい。
- ・現在、中央自動車道の側道が変則的で使いにくい（三鷹市内は側道が高速道路の片側で交互通行、世田谷区内は両側でそれぞれ一方通行）。側道は、車と人の安全性が確保されるように、幅員の確保と交互通行にしてほしい。
- ・北野小学校の通学路を確保するために中央 JCT 上部の利用が可能であれば、生活道路をとしてほしい。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・吉祥寺通りの分断による不便を解消し、バスの通行ができるようにするために、現況道路の幅員を拡幅してほしい。また、自転車・歩行者のアクセス動線を確保してほしい。
- ・外環境界部にある土地は接続道路がなく不便になる。また現在、細い生活道路の行き来がしにくいので、幅員が十分な道路を造ってほしい。
- ・生活道路である吉祥寺通りが分断されると不便になる。中央 JCT 部分に蓋かけをしても残してほしい。
- ・地区内のあらゆる生活道路が分断されてしまう。なるべく分断されないようにしてほしい。
- ・生活道路が分断されてしまう。中央 JCT 上部等を活用して、生活道路をできるだけ活かしてほしい。
- ・北野地区には日本女子体育大学の生徒が下宿をしており、東名 IC の出入口への道路によって、分断されると生活できない。三鷹都市計画道路 3.4.3 に加えて、自転車でわたることのできる数本の道路が必要である。

PIの進め方に関するアイデア

- ・東八 IC の入口から中央 JCT にかけて地区が現在平面で通過できているものが分断されるので、地域社会に大きな影響がある。検討会をするためにはどの場所が蓋かけが可能かを具体的に示すことが必要である。
- ・対応のアイデアを出すためには、JCT の構造を示すのは平面図ではなく、立面図で示す必要がある。

8. まちづくり（土地利用）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・中央 JCT 部分をグランドにするなどの有効活用をしてほしい。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・東八 IC ができることにより、周辺の農地が物流センターに変わるなど土地利用が変化するのではないか。土地利用を規制して防ぐことができないか。
- ・都市計画道路補助 217 号線は、既に建物がたくさん建っているので、区画整理をすることができないため、整備するのは難しい。

9. 安全・安心（交通安全・治安）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・中央 JCT の構造が複雑であることにより、中央 JCT 内の走行が危険である。また、吉祥寺通りを分断することになる。構造を再考してほしい。

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・現在、中央自動車道の側道が変則的で使いにくい（三鷹市内は側道が高速道路の片側で交互通行、世田谷区内は両側でそれぞれ一方通行）。側道は、車と人の安全性が確保されるように、幅員の確保と交互通行にしてほしい。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・現在、地区内道路は歩道が未整備であり、インターがでた交通量が増えたとき、安全面で不安がある。安心して歩くことのできる歩道を整備してほしい。
- ・東八 IC ができることにより、現在抜け道になっている道がさらに通行量が増えるのではないかな。通学路などの生活道路におけることもたちの安全確保をしてほしい。
- ・都市計画道路補助 219 号線は、烏山通り・中央道側道の交差点は危険な交差点になってしまう交通安全上の問題がある。
- ・日本女子体育大学の敷地が都市計画道路補助 219 号線整備により、4分割されてしまう。代替地による補償ではなく、都市計画道路補助 219 号線を廃止してほしい。都市計画道路補助 219 号線が整備される場合には、交通の危険がある。また、三角形の敷地が残ってしまうので区道を廃止するなどの対応をしてほしい。
- ・地域内の主要な道路は拡幅等が必要であるが、それ以外の道路は緊急自動車の通行可能な幅員を確保し、交通規制により通過交通が入らないようにする。

- ・外環・JCT 整備後も分断されない地区内の道路は、交互通行できるように整備をしてほしい。
- ・側道の防犯対策に街灯を設置する。しかし、畑が明るくならないようにしてほしい。

10. 安全・安心（災害・事故時の対応）の課題に対応するためのアイデア

トンネル部の計画に関するアイデア

- ・事故発生時のトンネル内の安全確保は十分なのか。

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・JCT 内で交通事故が発生したときの緊急避難等の対応は十分なのだろうか。

11. 工事（工事中の交通への影響）の課題に対応するためのアイデア

工事の進め方に関するアイデア

- ・東八 IC から出た車が吉祥寺通り、烏山通りを通行せずに東八道路を通るようにしてほしい。吉祥寺通り、烏山通りは高齢者の交通事故が増えており、横断するのが大変である。
- ・外環の工事中にダンプによる土砂搬出のために東八、烏山通りを使う場合には粉塵と交通量増加が懸念される。

12. 工事（工事中の環境への影響）の課題に対応するためのアイデア

工事の進め方に関するアイデア

- ・外環の工事を行うときに土砂などの搬出をどのようにするのか計画を教えてください。

13. 工事（交通の安全性）の課題に対応するためのアイデア

工事の進め方に関するアイデア

- ・外環の工事はいつからはじまるか早く教えてください。

14. 用地・補償の課題に対応するためのアイデア

用地補償の進め方に関するアイデア

- ・都市計画道路補助 219 号線を整備することにより、日本女子体育大学の敷地を分断し、面積が縮小するために大学運営に問題が起ることを懸念している。地域に根ざした大学であるの

で、代替地を確保してほしい。

- ・相続税納税猶予制度を活用した生産緑地が外環の整備に合わせて収用されると相続税に加えて、延納分の利子税を納めなくてはならない。土地を買収する場合には、代替地の確保や利子税分の補償をしてほしい。
- ・日本女子体育大学の敷地が都市計画道路補助 219 号線整備により、4分割されてしまう。代替地による補償ではなく、都市計画道路補助 219 号線を廃止してほしい。都市計画道路補助 219 号線が整備される場合には、交通の危険がある。また、三角形の敷地が残ってしまうので区道を廃止するなどの対応をしてほしい。
- ・外環整備により影響のある人に向けて対応をすることが必要である。地権者はまだ関心がないので、検討会以後は、地権者を中心とした懇切丁寧な説明会が必要である。
- ・外環整備等による残地（三角地）や代替地への対応など地権者の切実な問題を話しあう必要がある。

15. 計画検討の進め方（意見反映）の課題に対応するためのアイデア

計画の進め方に関するアイデア

- ・世田谷・調布・三鷹・杉並で一緒に考えてほしい。
- ・外環による影響は死活問題である地元地権者、住んでいる人を一番尊重して、決めてほしい。
- ・調布・三鷹・世田谷・杉並が一緒に検討をしないと全体が見えてこない。地域の意見を議論する場と地権者の意見を聞く場を分けるなど丁寧に会議を行う必要がある。
- ・何らかの形で今回の検討会のような場を継続的に開催してほしい。

16. 計画検討の進め方（情報の提供）の課題に対応するためのアイデア

PIの進め方に関するアイデア

- ・既存の道路のうち、残る道路と廃止になる道路を教えてほしい。
- ・検討会以降は、地権者に対して、早めに、分かりやすく、細かく、丁寧に計画に関する情報を流す必要がある。
- ・地権者に対して、整備のスケジュールを具体的に示す必要がある。
- ・今回の検討会で終わりではなく、今後も話を聞きたい。烏山通りがどうなるか地域全体に関わる問題なので関心がある。
- ・今回の検討会のような呼びかけ方法を少し工夫してほしい。知人で募集締切のあとで検討会のことを知った人がいた。
- ・検討会以後も節目には報告を聞きたい。

Bグループ

1. 交通（地区交通）の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

- ・吉祥寺通りの分断を解消するため、吉祥寺通りから側道で三鷹都市計画道路 3・4・11 号線につなぐとともに、調布都市計画道路 3・4・17 号線を同時に整備し、甲州街道（国道 20 号）までつなげる。

2. 交通（幹線交通）の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

- ・交通量の増加に対応するため、吉祥寺通り、烏山通り、松葉通りなどの拡幅等による交通機能維持・強化、一般道の都市計画道路網整備を実施する。
- ・生活道路の分断解消のため、三鷹都市計画道路 3・4・3 号線を整備する。都市計画道路補助 219 号線は必要性を検討する。

3. 交通（広域交通）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・東八 IC を利用する交通が甲州街道に流れるため、吉祥寺通り、烏山通りなど甲州街道（国道 20 号）につながる道路が現状以上に渋滞することが懸念される。インターチェンジは東八道路ではなく甲州街道（国道 20 号）に設けた方が利便性が高く、地域への影響も少なくなる。

4. 環境（大気質）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・ジャンクションからの排気や騒音が心配。できるだけ蓋掛けしてほしい。

換気所の計画に関するアイデア

- ・換気所から排出される Nox が心配であるため、脱 Nox 対策を実施する。
- ・換気所の高さが他の地域より低く、周辺に排出ガスの影響が増えるのではないかと心配である。脱硝装置が装備されず、高さによる影響の差が明らかでないのであれば、他の地域と同じ 30m

にしてほしい。周辺の景観に配慮したとのことだが、近くの三鷹市環境センターの排気塔は 59m あるので、中央 JCT の換気塔だけ低くする必要性は感じられない。

PIの進め方に関するアイデア

- ・換気所周辺の大気質が悪化するのではないか。特に停電等の事故時に電気集塵機の故障で排出ガスが処理されずに周辺への影響が増加することが心配である。事故時の対応について、情報提供してほしい。
- ・換気所に関して、首都高中央環状線での影響に関する情報を示してほしい。

5. 環境（騒音・振動・低周波音）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・ジャンクションからの排気や騒音が心配。できるだけ蓋掛けしてほしい。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・現在の中央道からの騒音を低減させるため、南側の防音壁を上げる。

6. まちづくり（まちづくり全般）の課題に対応するためのアイデア

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・生活道路の分断の解消、建物が既存不適格となることを防ぐため、環境施設帯を利用した側道とそこにつながる生活道路を車線 2 車線＋歩道で 6m で整備する。
- ・生活道路の通行機の確保とともに、地域の人が楽しく散策できるよう、環境施設帯に遊歩道や自転車道を設ける。
- ・雨水を利用して、池やビオトープなどを環境施設帯につくってほしい。

換気所の計画に関するアイデア

- ・地域への利益還元のため、排出ガスなどの廃熱エネルギーを活用する。
- ・停電時に排出ガスを適切に処理するため、太陽光発電機を設置する。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・地価の低下を防止するため、特に地価下落が予想される給田 5 丁目など第一種低層住居専用地域の用途地域の見直しを行い、建ぺい率および容積率を上げる。

7. まちづくり（地域分断）の課題に対応するためのアイデア

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・生活道路の分断の解消、建物が既存不適格となることを防ぐため、環境施設帯を利用した側道とそこにつながる生活道路を車線2車線＋歩道で6mで整備する。
- ・第六中学校の通学路の分断を解消するため、北野1丁目と2丁目間の通行機能を確認する。
- ・外環の整備によって北野3丁目、4丁目と給田5丁目間の通行が分断されることが心配である。これらの地域は通学や親類同士の往来のため、結びつきが強い。多少、複雑になってもジャンクションを通過できるよう、環境施設帯に遊歩道、自転車道を設けてほしい。
- ・接道する土地の地価の低下を防ぐため、環境施設帯を利用して設置する側道は6mを確認する。
- ・環境施設帯を利用して設置する側道は6m以上とし、通学路の安全が確保できるように歩道を設ける
- ・中央ジャンクションの整備により生活道路が分断されることを懸念する。環境施設帯を利用した側道や、環境施設帯内に連絡路を設置する事で、中央ジャンクションにより分断される生活道路の機能を維持してほしい。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・北野中央通りの分断を懸念する。北野中央通りの機能が維持されるように環境施設帯を利用して側道を設置し、南北が分断しないようにしてほしい。

8. まちづくり（土地利用）の課題に対応するためのアイデア

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・地域の防災性を向上させるため、環境施設帯に仮設住宅建設などのための防災用広場を設ける。
- ・地域の雨水排水に影響が出ないよう、排水計画を踏まえた整備とする。

9. 安全・安心（交通安全・治安）の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

- ・通学路の分断を解消するため、安全な通学路を確保する。

10. 工事中（工事中の交通への影響）の課題に対応するためのアイデア

工事の進め方に関するアイデア

- ・工事中の工事車両は相当多いのではないかと。生活環境や地域交通への影響を懸念する。工事中

は一般道を使わず中央道に臨時出入口を設け、中央道により資材や残土等の搬入搬出を行う。あるいは、東八尾を取り止め、ジャンクションのみとし、工期を短縮し工事車両を減少させる。

- ・工事車両が通行する場合の一般道の安全性や生活環境への影響に対応するため、外環整備を行う前に関係する三鷹都市計画道路3・4・3号線、3・4・11号線等を整備する。
- ・工事中に吉祥寺通りの機能が失われることを懸念する。機能が維持されるように計画的に整備してほしい。

11. 工事中（工事中の環境への影響）の課題に対応するためのアイデア

工事の進め方に関するアイデア

- ・工事車両が通行する場合の一般道の安全性や生活環境への影響に対応するため、外環整備を行う前に関係する三鷹都市計画道路3・4・3号線、3・4・11号線等を整備する。
- ・工事中の工事車両は相当多いのではないかと。生活環境や地域交通への影響を懸念する。工事中は一般道を使わず中央道に臨時出入口を設け、中央道により資材や残土等の搬入搬出を行う。あるいは、東八尾を取り止め、ジャンクションのみとし、工期を短縮し工事車両を減少させる。

12. 用地・補償の課題に対応するためのアイデア

用地補償の進め方に関するアイデア

- ・都市計画道路補助219号線沿線の大学機能への影響を低減するため、ルートの変更あるいは、隣接代替地を確保する。
- ・買収用地で従前どおりの土地利用ができない残地について、十分な補償をする。

13. 計画検討の進め方（計画検討全般）の課題に対応するためのアイデア

計画の進め方に関するアイデア

- ・都市計画決定から41年を経て都市計画変更決定して、さらに今後10年間で事業化できないのであれば、もう白紙に戻してほしい。

14. 計画検討の進め方（意見反映）の課題に対応するためのアイデア

計画の進め方に関するアイデア

- ・最終成果物である「地区検討会記録集」が事業にどのように反映されるのか明確にしてほしい。活かされるところ、活かされないところ、それぞれの理由を含めて明確にしてほしい。単なる記録集とにならないように活かしてほしい。
- ・検討会での住民の意見がどう反映されたのか、チェックする機能を担保してほしい。

- ・検討会が終わるまでに、出された意見が今後の設計に何をどう活かすのかを示すなど、行政として誠意を見せてほしい。

15. 計画検討の進め方（情報の提供）の課題に対応するためのアイデア

PIの進め方に関するアイデア

- ・各区市から出された要望書への回答より具体的な対応を示してほしい。
- ・事業の進捗にともない、情報提供を随時行う。
- ・外環の整備や都市計画道路補助 219 号線の整備スケジュールが明確にならないと、大学の将来計画が立てられない。スケジュールを早期に明らかにしてほしい。
- ・中央ジャンクションに関わる三鷹市、調布市、世田谷区の3区市の合同によるP I を開催してほしい。
- ・外環の整備や周辺の都市計画道路の整備スケジュールを明確にすることで、住民の生活設計がたつようにする。

Cグループ

1. 交通（幹線交通）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・ジャンクションやインターチェンジの経路が複雑で、事故が起こるのではないかと心配である。特に練馬方面との出入りでUターンすることは、この地域に排出ガスを撒き散らすようなもので大気への影響が心配である。東八ICの北に練馬方面へのインターチェンジと、中央自動車道の側道に直接出入りできるインターチェンジを新設すれば、CO₂ や交通量を分散できるのではないかと。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・甲州街道の渋滞解消のために、東八道路を環八まで開通させれば、交通量が分散して、少しは解消されるのではないかと。

2. 交通（広域交通）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・料金所や掘割部から出る騒音や排出ガスが多いのではないかと心配である。蓋かけなど構造上の検討をしてほしい。また、ジャンクションやインターチェンジを利用する車の台数が予測されているのだから、排出ガスの影響がどれくらいあるのかを予測してほしい。

管理の進め方に関するアイデア

- ・中央自動車道の下り方面を利用するには、東八ICまで迂回する不便な計画なので、環八道路の近くに下り方面の入口を新設してほしい。
- ・中央自動車道の上り方面が、朝や土日に渋滞しているので、環八道路から首都高料金所までの区間は3車線にして渋滞を解消してほしい。

3. 環境（大気質）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・ジャンクションやインターチェンジの経路が複雑で、事故が起こるのではないかと心配である。特に練馬方面との出入りでUターンすることは、この地域に排出ガスを撒き散らすようなもので大気への影響が心配である。東八ICの北に練馬方面へのインターチェンジと、中央自動車道

の側道に直接出入りできるインターチェンジを新設すれば、CO₂ や交通量を分散できるのではないかと。

- ・料金所や掘割部から出る騒音や排出ガスが多いのではないかと心配である。蓋かけなど構造上の検討をしてほしい。また、ジャンクションやインターチェンジを利用する車の台数が予測されているのだから、排出ガスの影響がどれくらいあるのかを予測してほしい。

換気所の計画に関するアイデア

- ・換気所が2箇所計画されており、大気汚染が起こるのではないかと心配である。周辺地域の住民に影響が出ないように、換気所の高さをできるだけ高くしてほしい。
- ・換気所の高さが、三鷹市環境センターの煙突よりも低いので影響が無いかと心配である。中央環状新宿線の換気所に比べても低く、CO₂ の処理能力が心配である。景観よりも大気質や騒音への対策が大切だと思うので、換気所の高さを15mではなく45mに高くしてほしい。景観に配慮して低くしろという意見は周囲で聞いたことがない。低くするのは建設費用を抑えるためでないかと。
- ・換気所の高さは、周辺に高い建物がないので15mにしていると説明されているが、最近では7階建ての建物が建設され始めている。15mでは周辺の建物よりも低くなる可能性があるため、景観よりも大気質の影響を配慮して、30mよりも高くしてほしい。

4. 環境（騒音・振動・低周波音）の課題に対応するためのアイデア

PIの進め方に関するアイデア

- ・換気所から排出ガスを放出する際に低周波音が発生するが、その対策はできているのか心配である。1/3 オクターブ周波数分析をして、周波数の成分を示してほしい。

5. 環境（緑の量）の課題に対応するためのアイデア

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・見学会をしてみて、思った以上に地域に、緑や畑が多く、とても環境が良いと思った。外環が整備されると大気汚染による緑の減少や環境への影響が心配である。環境施設帯が緑の代替になるようにしてほしい。
- ・外環の整備は地域の緑が減少してしまうのではないかと心配している。減少してしまう緑の代替として、インターチェンジの地上部を有効活用しても良いのではないかと。
- ・環境施設帯の幅を30mにして、掘割部の蓋かけ部分を増やしてできるだけ範囲を広くしてほしい。緑を現状より増やし10m程度の高木種を植えて、緑の質を高めてほしい。
- ・都市計画審議会や環境影響評価の内容を見ると、緑の広場や畑、雑木林、路地空間などのアメニティや住みやすさなどの視点が抜けており、環境の劣化が心配である。環境が劣化する分の代用を、中央JCT周辺の空間に多めに取るように計画してほしい。
- ・ジャンクション周辺の緑が少なくなることが心配なので、環境施設帯の境界部分をケヤキなど

の高木の並木にして、世田谷区が 2032 年度を目標にしているみどり率33%に資する緑地にしてほしい。

- ・中央ジャンクション整備の地域分断は人間だけの問題ではなく、生物や植物にも影響があると思うので、生態系に関しても追加調査を行ってほしい。
- ・都市計画道路補助 219 号線の用地買収で、日本女子体育大学や隣接する敷地で三角形などの不整形で狭隘な敷地が発生する。それらの敷地を入れ替えるなどして、整形化することができないか検討してほしい。都市計画道路補助 219 号線の整備をするなら、不整形で狭隘な敷地を利用して、また周辺住民の協力を得て緑化してほしい。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・ジャンクション周辺の緑が少なくなることが心配なので、周辺の都市計画道路の沿道を並木にしてほしい。
- ・北烏山もぐら公園（北烏山八丁目緑地）が都市計画道路補助 219 号線で分断されてしまうのが心配である。プレイパークとして利用されている他に避難所にも指定されており、緑豊かな生態系を保全するための代替措置が必要である。

6. 環境（環境一般）の課題に対応するためのアイデア

調査の進め方に関するアイデア

- ・事前調査の試算による影響評価だけで基準をクリアしていても不安なので、現在の環境から外環開通後の環境がどのような変化しているかを比較できるようにモニタリング調査を継続してほしい。

7. まちづくり（まちづくり全般）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・この地区は、外環と中央自動車道が交差する位置なので、災害発生時に毛布や食料などを緊急輸送できるように、高架下や環境施設帯などに災害時のための備蓄倉庫をつくってほしい。
- ・中央自動車道などの高架下となる場所は暗くて目が届きにくくなるので、防災倉庫などに利用してほしい。

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・環境施設帯を利用して、体育館やプールなどの複合のスポーツ施設をつくってほしい。騒音や排出ガスの影響がなくするために屋内施設にほしい。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・電線を地中化する場合には、地下に埋設される高圧電線が地表に近くなるので、長期的に見た、電磁波の影響がないようにしてほしい。

8. まちづくり（地域分断）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・小学校などの施設は災害時の避難所に指定されているが、ジャンクション構造物で地域分断され、避難所までの経路が遠くならないようにしてほしい。

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・中央自動車道の側道は、利便性が高く、地域住民が利用する主要な道路である。分断されて通れなくなることが心配である。外環の整備後も行き止まりや回り道にならないように、側道を利用できるようにしてほしい。あわせて、杉並区境の北烏山 2 丁目の側道を整備してほしい。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・吉祥寺通りの交通分断が心配なので、都市計画道路三鷹 3・4・11 の線形を見直して、ジャンクション部で迂回しても再び吉祥寺通りに戻るようにしたらどうか。
- ・吉祥寺通りのバス路線の分断が心配なので、吉祥寺通りや甲州街道の旧道を通り、京王線の千歳烏山駅、仙川駅などと JR 中央線の荻窪駅などを経由して循環するバス路線に見直してほしい。

9. まちづくり（土地利用）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・この地域にはグラウンドなど、区の施設が少ない。中央高速道の高架下が野球などに使われており、そういった地域の需要があると思うので、掘割路に蓋をかけるなど有効活用をしてほしい。

10. 安全・安心（交通安全・治安）の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

- ・生活に身近な生活道路は、4mまででそれ以上には拡幅しないほうが良い。生活道路に抜け道利用などの通過交通が増え、交通事故も増えるのではないかと心配である。

- ・都市計画道路補助 219 号線沿いは、真暗なので、道路整備と合わせて、街路灯を整備してほしい。
- ・都市計画道路の整備と合わせて、電線などの地下埋設物を統合して共同溝を整備してほしい。

11. 安全・安心（災害・交通事故時の対応）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・外環の練馬方面への出入りがUターン方式で計画されているなど、ジャンクション構造が複雑であり、事故や火災などの発生が心配なので、Uターン方式の撤回や中央自動車道への出入口の新設など再検討してほしい。ジャンクションの建設費も低減すると思う。

12. 工事中（工事中の交通への影響）の課題に対応するためのアイデア

工事の進め方に関するアイデア

- ・工事車両が東八道路方面に出入りして、交通渋滞が起こるのではないかと心配なので、中央自動車道に直接出入りするようにしてほしい。

13. 工事中（工事中の環境への影響）の課題に対応するためのアイデア

工事の進め方に関するアイデア

- ・工事では出る残土を運搬する車両の行き来が心配である。工事車両の交通計画を作してほしい。工事車両の交通計画を都条例で規制することも考えられる。また、残土の処理先も明確にほしい。

14. 工事中（工事中の安全性）の課題に対応するためのアイデア

工事の進め方に関するアイデア

- ・工事中の特定建設作業については、工事業者と事前協議をして届出が出されると思うが、その内容が守られない実態が多く、工事の騒音、振動、粉塵が心配である。近隣への説明会の開催や、届出内容を守るように徹底してほしい。
- ・地上から開削工事をする際に、中央自動車道の基礎の強度に影響が出て、高架が傾くのではないかと心配しているので、影響が出ないようにしてほしい。
- ・工事にあたっては、上下水道やガス管などの地下埋設物が分断しないようにしてほしい。

15. 用地・補償の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

- ・日本女子体育大学の敷地は区道で 2 分割されているが、さらに都市計画道路補助 219 号線が通ると 4 分割されることになる。敷地がさらに分断されないように、都市計画の廃止や地下化を含めた見直しや、現在の区道を付け替えるなどして敷地の統合を検討してほしい。

用地・補償の進め方に関するアイデア

- ・都市計画道路補助 219 号線の用地買収で、日本女子体育大学や隣接する敷地で三角形などの不整形で狭隘な敷地が発生する。それらの敷地を入れ替えるなどして、整形化することができないか検討してほしい。都市計画道路補助 219 号線の整備をするなら、不整形で狭隘な敷地を利用して、また周辺住民の協力を得て緑化してほしい。
- ・都市計画道路補助 219 号線が大学敷地を通る計画である。校舎の改築やカリキュラム変更など影響が大きく、学校経営上の対応すべきことが多いので、都市計画道路補助 219 号線の整備時期を早めに教えてほしい。
- ・計画地内に住んでいる人と交友関係がある。近くに代替地が見つからずに遠くに引越してしまうと、近所づきあいがなくなってしまうようにしてほしい。

16. 計画検討の進め方（計画検討全般）の課題に対応するためのアイデア

調査の進め方に関するアイデア

- ・ランプが高架になる箇所の下では低周波音が発生するが、その対策はできているのか心配である。何デシベル以下という基準値を下回ったとしても「気になる音」があるので、その観点で調査してほしい。測定に当たっては、1/3 オクターブ周波数分析をして、周波数の成分を示してほしい。
- ・料金所や掘割脇から出る騒音や排出ガスが多いのではないかと心配である。蓋かけなど構造上の検討をしてほしい。また、ジャンクションやインターチェンジを利用する車の台数が予測されているのだから、排出ガスの影響がどれくらいあるのかを予測してほしい。
- ・高架になるランプの下部で低周波音が発生することが心配なので、低周波音の影響評価をしてほしい。
- ・環境影響評価で、ジャンクション部の大気質への影響を予測してあるが、その評価が正しいものであったかを検証するために、外環開通後に、予測と同じ場所で計測して公表することを確約してほしい。
- ・換気所から上空に排気ガスを吹上げるときに風圧が高くなり風きり音が出ると思うので、影響評価を実施しているのであればデータを示してほしい。実施していないのであれば、追加調査してほしい。
- ・北烏山の寺町通り周辺は戦争や震災時に浅草から寺院が移転してきた歴史ある場所である。高

源院には湧水があり、外環工事で水脈に影響が出て、枯れてしまわないか心配である。高源院の湧水を影響評価調査の対象に入れてほしい。

計画の進め方に関するアイデア

- ・三鷹市に関する課題は三鷹市に任せておいた方がよい。世田谷区が口を出すことではないと思う。
- ・東八 IC 周辺の烏山通りや吉祥寺通り、新設される都市計画道路などの交通量がどれくらいになるのか心配である。外環本線だけでなく、周辺の幹線道路の流れ、動線、交通量の増減などの交通予測をしてほしい。

17. 計画検討の進め方（意見反映）の課題に対応するためのアイデア

PIの進め方に関するアイデア

- ・中央 JCT から環八道路の問題を考えるために、北烏山1～9丁目の住民で話し合いの場を設けて、解決策を議論したい。

その他の進め方に関するアイデア

- ・外環開通後に環境アセスメント調査で示された予測と同じ地点でモニタリングし、予測値と実測値の比較と検証を行い、何か問題が生じた際にはそのつど対策が取れるようにしておいてほしい。
- ・以前、大学敷地内で建設工事をした時に、地下を掘ったら地下水が出た。この地域には水脈があり、外環工事で水脈が切れて井戸水などに影響がないようにしてほしい。

18. 計画検討の進め方（情報の提供）の課題に対応するためのアイデア

PIの進め方に関するアイデア

- ・料金所や掘割部から出る騒音や排出ガスが多いのではないかと心配である。蓋かけなど構造上の検討をしてほしい。また、ジャンクションやインターチェンジを利用する車の台数が予測されているのだから、排出ガスの影響がどれくらいのあるかを予測してほしい。
- ・換気所の高さは、15m でも 45m でも換気性能は変わらないと説明されているが、低くてもよいという根拠になるデータを示してほしい。
- ・烏山通りから天神山通りまでの中央自動車道の側道が計画に示されておらず、分断されるのではないかと心配である。どのような道路になるかを歩道も含めて示してほしい。
- ・生活道路が計画地で分断され行き来できなくなることが心配なので、分断の可能性のある道路については、将来の計画を説明してほしい。
- ・最近でも計画地内に住宅が分譲・販売され続けている。最近になって新しく住み始めた人たちを含めて、事業化の時期などを説明してほしい。

- ・測量の結果、現在示してある区域が広くなることもあるのか知りたい。
- ・検討会の成果が計画に反映されているかがわかるように、計画の検討段階で内容を情報開示してほしい。

1. 交通（地区交通）の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

- ・都市計画道路補助 219 号線のルートが住宅街や施設の中を通るため、生活環境や施設運営に影響を与えることが心配である。その課題解決のため、当該道路のルートが変更されるよう、中央自動車道の側道や高架下を利用するなど計画の見直しを行ってほしい。
- ・地域が分断されて交通利便性が悪くなることが心配。今の生活動線やコミュニティの状況等を尊重し地域の現状を詳しく調べ直して都市計画道路の位置や線形等を再検討すべき。
- ・駅への交通、バス交通路など利便性はどうなるのか不安である。都市計画道路は住民生活の動線を精査して再検討してほしい。
- ・都市計画道路補助 219 号線は、日本女子体育大学の敷地を通るため、三鷹都市計画道路 3・4・3 号線とともに中央自動車道の側道を活用する形のルートへの変更を検討してほしい。その場合、ジャンクション付近に交通が集中するため、大気質への影響も考慮して検討してほしい。
- ・都市計画道路網の整備において自転車専用レーンを設置することによって主要道路の渋滞解消を図ることができるため、交通利便性や大気質の改善が期待できる。
- ・中央 JCT 周辺地域の交通の流れを改善し道路の利便性を向上させる必要がある。その課題解決のため、道路ネットワークが充実するよう、既存の中央自動車道の高架下の空間を道路用地として有効活用する方法もある。
- ・地域の効果的な道路ネットワークを形成するために、各道路の建設・管理主体である国・県・区が連携して外環周辺の道路整備を進めてほしい。

2. 交通（幹線交通）の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

- ・福祉施設やマンション、身体障害者施設などの生活系の建設が進んでいるため、新たな生活環境への影響や利便性に配慮した道路の整備が望まれる。その課題解決のため、外環周辺の建物の立地動向や土地利用に留意した道路網が形成されるよう、地域交通計画を行ってほしい。
- ・昭和 41 年に決められた都市計画道路網は、生活環境や施設経営（用地補償）の面で問題が生じると考えられる。したがって、交通ネットワークに配慮しつつ外環周辺の都市計画道路網（主に都市計画道路補助 219 号線）を見直してほしい。
- ・都市計画道路補助 219 号線による用地補償があっても現在の敷地の周りに代替地がなければ、大学（日本女子体育大学）の経営に影響が生じる懸念がある。建て替えを行えば解決できるとも限らない。大学は立地条件や施設の状態も経営に影響するため、施設の性格も考慮して都市計画道路補助 219 号線を再検討してほしい。

3. 交通（広域交通）の課題に対応するためのアイデア

管理の進め方に関するアイデア

- ・東八 IC の設置により交通量が増加するため東八道路の渋滞悪化が懸念される。高井戸 IC に上り口を設けることにより東八道路の渋滞が緩和し、生活道路への通り抜けの減少も予想できるため、大気汚染や騒音・振動、交通安全の面での改善も期待できる。
- ・中央 JCT・東八道路 IC が複雑であるため交通事故が懸念される。その課題解決のため、中央 JCT の利用者が減少するよう、既存のインターチェンジの利用を促進する方策として高井戸 IC のフルインター化を図ってほしい。
- ・外環の周辺道路の交通による排出ガス、振動、騒音などの環境全般に対する影響が懸念される。その課題解決のため、中央 JCT 周辺地域に集中する交通量が分散されるよう、既存の高井戸 IC をフルインターチェンジにしてほしい。
- ・外環の周辺道路の交通による交通事故の発生が懸念される。その課題解決のため、中央 JCT 周辺地域に集中する交通量が分散されるよう、既存の高井戸 IC をフルインターチェンジにしてほしい。

4. 環境（大気質）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・オープンジャンクション部からの排出ガスによる悪影響が懸念される。その課題解決のため、排出ガスの外部への流出を防ぐよう、ジャンクション部にできる限り蓋をかけてほしい。

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・地域住民にとっては大気質の汚染が進んでいることが直ぐに確認できない不安がある。環境汚染の指標として、木枯れの状態を観察できるような外環の環境施設帯の緑地整備を提案する。

換気所の計画に関するアイデア

- ・外環の排出ガスの影響による喘息の悪化が懸念されるため、排出ガス処理の最新技術を導入してほしい。
- ・現計画では、換気所はトンネル内の排出ガスの処理のために設けられる施設であるため、オープンジャンクション部分から直接排出されるガスによる地域への影響が懸念される。できるかぎりジャンクション部の蓋かけを行うとともに、排出ガスを最大限処理するための最新装置を換気所に設置する必要がある。
- ・トンネル内の排出ガスを換気所に集中させて適切に処理できるのか不安である。適切に処理するためには、換気所に最新の除塵脱臭装置を設ける必要がある。

- ・排出ガスによる周辺地域への影響を少なくするため、換気所の位置をジャンクションのエリアの中央部に移動し、1本にまとめた場合の効果について検討してほしい。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・都市計画道路補助219号線は、日本女子体育大学の敷地を通るため、三鷹都市計画道路3・4・3号線とともに中央自動車道の側道を活用する形のルートへの変更を検討してほしい。その場合、ジャンクション付近に交通が集中するため、大気質への影響も考慮して検討してほしい。
- ・都市計画道路網の整備において自転車専用レーンを設置することによって主要道路の渋滞解消を図ることができるため、交通利便性や大気質の改善が期待できる。

管理の進め方に関するアイデア

- ・トンネル内からの大気質の影響が換気所だけの処理では不安がある。その課題解決のため、より空気が浄化されるよう、トンネル内のジェットファンにも最新の排出ガス処理技術の導入を図ってほしい。
- ・排出ガスの処理機能が備わっていてもメンテナンスが不適切になることによる影響の不安がある。その課題解決のため、ジェットファンやフィルターなどの処理装置の維持管理を常に適切に行ってほしい。

その他の進め方に関するアイデア

- ・現時点の外環による環境影響の予測結果に満足するのではなく、より影響を低減するために、法改正も視野に入れて環境基準の厳格化を検討する必要がある。
- ・法律の基準に従うだけでなく、排出ガスによる影響をより低減するための対策を検討していくことが重要である。
- ・環境基準の信頼性がわからず、喘息患者にとっては特に大気質による影響が不安である。その課題解決のため、排出ガスによる少しでも低減するよう、国レベルでの排出ガスの規制強化を図ってほしい。

5. 環境（動物、植物生態系）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・外環によって緑の減少が懸念される。その課題解決のため、潤いある景観や生態系にも配慮したグリーンネットワークが形成されるよう、周辺の既存の緑地と環境施設帯を活かした、地域のつながりある緑地を整備してほしい。

6. 環境（緑の量）の課題に対応するためのアイデア

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・排出ガスの影響を少しでも低減させるとともに、温暖化やヒートアイランド現象の対策にもなるよう、外環の環境施設帯を活用すべきである。その課題解決のため、様々な環境問題に対して効果が期待できる緑化を図れるよう、環境施設帯の植える樹種の選定等を行ってほしい。
- ・外環によって緑の減少が懸念される。その課題解決のため、潤いある景観や生態系にも配慮したグリーンネットワークが形成されるよう、周辺の既存の緑地と環境施設帯を活かした、地域のつながりある緑地を整備してほしい。

7. 環境（環境一般）の課題に対応するためのアイデア

調査の進め方に関するアイデア

- ・外環整備に伴い喘息患者が増える懸念がある。その課題解決のため、排出ガス対策が適切に計画されるよう、現状の喘息患者数のデータを詳細に調査して実態を把握してほしい。

8. まちづくり（まちづくり全般）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・外環の地表部分に覆いをするのであれば、覆いにソーラーパネルを貼るなどして積極的に外環整備によるメリットを生み出せるとよい。
- ・振動で発電する実験が他の事例で行なわれていることを踏まえ、外環の計画においても同様な取り組みを検討してみるべきである。電気は住民も利用できればよい。
- ・ジャンクション部分にできるかぎり蓋をかけ、その上の空間を活用して、地域コミュニティのための緑化や公園整備を行ってほしい。

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・ジャンクション上部に蓋をかけて大きな環境施設帯をつくれば、排出ガス対策や緑化だけでなく防災基地としても活用できる。高速道路と直結しているため災害物資の輸送などに有利であり、外環の価値を高めることができる。

換気所の計画に関するアイデア

- ・換気塔からの排気で発電するなど、外環の整備によりプラスの効果が生まれるように考えるべきである。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・ 蓋がけした場合の上部空間を地域や社会のために積極的に有効利用すべきである。その課題解決のため、防災・救援に役立つ施設になるよう、ヘリポートを整備してほしい（車両用施設より空輸施設のほうが確実で効果的である）。
- ・ エイトライナー計画が難航しているのであれば、外環の地下空間を使った「外環ライナー」計画を検討してみてもどうか。それが実現すれば車を使わなくても南北方向の移動が便利になる。

9. まちづくり（地域分断）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・ 外環による地域分断を解消するため、東八ICからのジャンクションへの進入路をできるかぎり地下化、または手前から下ろすなど、東西に連絡できる部分の幅を広げられるよう工夫してほしい。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・ 自転車の交通量が今後増えた場合でも、自転車と歩行者が円滑かつ安全に通行できる道路の整備と交通規制が必要である。
- ・ 地域分断を生じさせないためにも、地域の重要な生活幹線道路である吉祥寺通りの利便性を残せるように工夫し、都市計画道路三鷹 3・4・11 と吉祥寺通りとの連絡位置を再検討してほしい。

PIの進め方に関するアイデア

- ・ ジャンクション部に蓋がけできる部分がないため、アイデアを出しても実現可能であるのか不安である。そのため、具体的な検討ができるよう、蓋掛けできる部分の図面や情報がほしい。
- ・ 今まで出された意見をもとに対策を実施するとどのようなことになるのか事前に知ることが次の検討に効果的である。そのため、アイデアを実現させた場合のイメージがわかるよう、CG などを使ったシミュレーションがほしい。

10. 安全・安心（交通安全・治安）の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

- ・ 東八ICの設置により交通量が増加するため東八道路の渋滞悪化が懸念される。高井戸ICに上り口を設けることにより東八道路の渋滞が緩和し、生活道路への通り抜けの減少も予想できるため、大気汚染や騒音・振動、交通安全の面での改善も期待できる。

11. 安全・安心（災害・事故時の対応）の課題に対応するためのアイデア

トンネル部の計画に関するアイデア

- ・ 集中豪雨により外環のトンネル内が冠水して危険にさらされる心配がある。排水対策は検討されているのか、おしえてほしい。されていなければ、しっかり検討して排水対策を実施すべきである。

12. 計画検討の進め方（計画検討全般）の課題に対応するためのアイデア

調査の進め方に関するアイデア

- ・ 外環の排出ガスの影響について、幼稚園・学校だけでなく公園など不特定多数の人が集まる施設の詳しい予測データを住民等にわかりやすく伝えてほしい。
- ・ 換気所からの排出ガスによって喘息患者が増えると同時に都の医療負担が増える懸念がある。その課題解決のために、喘息患者が増えないよう、大気汚染の実態を詳細に把握した上排出ガス対策を行ってほしい。
- ・ 大気質の影響調査の測定値が一箇所だけを示して説明されたため、他の箇所での影響が心配である。その課題解決のため、多くの箇所での影響の予測値がわかるよう、大原などの地点も含めた詳細な調査結果を示してほしい。
- ・ ジャンクションが供用されなければ外環の排出ガスの実際の影響はわからないため、供用開始後の環境影響の測定を定期的に実施してほしい。
- ・ 外環整備後の地下水への影響が心配であり、影響調査が継続して的確に行われるかが不安である。その課題解決のため、供用後も環境影響を把握して的確な対策が打てるよう、長期間定期的に調査を実施するとともに現地の状況に詳しい専門家を入れた分析評価を行ってほしい。

計画の進め方に関するアイデア

- ・ 日々進化している大気汚染対策技術の活用が望まれる。その課題解決のため、事業行程の中でできるだけ排出ガス処理が行われるよう、工事段階においても最新技術を導入してほしい。

管理の進め方に関するアイデア

- ・ 中央自動車道と外環の管理主体が分かれていると、問題が生じた際に適切に対処できない場合があることが考えられるため、柔軟に対応できる管理計画を立てほしい。外環の管理主体が中央自動車道と同じであるのか知りたい。

PIの進め方に関するアイデア

- ・外環整備が地域にとって悪影響だけをもたらす結果になってしまう懸念がある。その課題解決のために、さらに付加価値が高まるよう、地域や社会にとってメリットをつくりだすものにしてほしい。

13. 計画検討の進め方（意見反映）の課題に対応するためのアイデア

PIの進め方に関するアイデア

- ・様々な課題解決のアイデアを出しても地権者が合意しないことにより実現できないという懸念がある。その課題解決のために、隣接区市内も含め同意が得られるよう、地権者への十分な対応により合意形成を適切に進めてほしい。
- ・住民意見が適切に反映された計画にするため、調査や計画の検討の経緯・内容の途中チェックや確認に住民が参加できる方法で検討を継続してほしい。
- ・調査や計画の検討の経緯・内容の途中チェックや確認を住民が行えるようにする。

14. 計画検討の進め方（情報の提供）の課題に対応するためのアイデア

PIの進め方に関するアイデア

- ・東八道路周辺の大気質が現状で環境基準を超えているのではないかと心配である。東八道路をはじめ、主な地点の大気質の状態をおしえてほしい。
- ・環境影響の予測結果を詳しく知るためには、分厚い評価書をしっかり読まなければならない。公告・縦覧などの中でわかりやすく説明を受けることができるとよい。
- ・外環や周辺の都市計画道路の整備に伴う用地補償について、地権者など権利関係者の合意形成が必要である。
- ・地域の適切な道路ネットワークが重要であり、外環本線と周辺道路の整備時期がずれていると地域の交通問題が起るため、周辺の計画道路と本線との整備の内容やスケジュールなどの整合性について情報を提供してほしい。
- ・道路整備による地域住民の生活への影響を回避するため、工事中や供用後の交通規制などの情報を事前に公表してほしい。
- ・調査や計画の検討内容を誰もが容易に把握できるよう、広報などで内容を公表する。

1. 交通（地区交通）の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

- ・東八IC 完成後に烏山通りに車が流入することを懸念している。そのため都市計画道路補助 216 号線、217 号線の整備を東八IC 完成に合わせて進めるべきである。
- ・現在も東八道路、烏山通り、吉祥寺通りの渋滞を避け生活道路に車が流入している。インターチェンジの出入り口ができれば間違いなくその状況は悪化する。外環整備と平行して周辺道路の整備が絶対必要条件である。
- ・今計画されている都市計画道路では中央 JCT 周辺の渋滞解消はできないのではと思う。道路単体ではなく、もっと広いエリアを一体的に、道路網として考えて計画してほしい。
- ・外環整備に伴い都市計画道路補助 219 号線を新たに整備するのであれば地域への影響が少なくなるよう地下にするのはどうか。どこで地上に出すかは問題だが。
- ・都市計画道路補助 219 号線が大学の敷地内を通るため、大学側としてはとても厳しいと感じている。ぜひ異なるルートで整備してほしい。
- ・生活道路を再整備し、すっきりした道路網を検討すべきである。
- ・周辺の生活道路については、環境施設帯内に含まれてなくなる道路もあることから、代替道路整備も含めて、今後どうするべきか、この場できちんと意見を出し、隣市などの行政間と連携をとりながら進めていく。
- ・JCT、環境施設帯が整備されることで、周辺に行き止まり道路ができないように、代替路線の検討等、それらの対策を練る。

2. 交通（幹線交通）の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

- ・外環整備と平行して、都市計画道路や主要道路（東八道路、吉祥寺通り、甲州街道(国道 20 号)、烏山通り）の整備を行い、今よりも快適な生活環境をつくってほしい。
- ・周辺の都市計画道路整備の目処も立たない中で外環整備を進めれば、烏山通りなど周辺の生活道路への通り抜け車両が増加することは間違いのないことから、現実性のない都市計画道路を見直し、むしろ烏山通りをはじめとした生活道路の整備を早急に進め、安全・安心の歩行空間を確保する。
- ・都市計画道路補助 219 号線を含め、周辺の都市計画道路を整備する際に代替地などの補償の確約もない中で、外環整備が進められるのは不満である。都市計画道路についてまだ具体的にないのであれば、外環整備に併せて見直しをし、むしろ生活道路を整備する。
- ・外環整備後、東八IC から東八道路を通り、都市計画道路補助 217 号線に車が流れる可能性は極めて低く、むしろ烏山通りの通過車両が増加することが予測されることから、都市計画道

路補助 217 号線の見直しをし、烏山通りをはじめとした生活道路の整備を優先する。

- ・東八IC から甲州街道（国道 20 号）へ向かう車は烏山通りに集中し、烏山通りが渋滞することが明白であるため、烏山通りを再整備する必要がある。
- ・東八IC 東側の都市計画道路補助 216 号線、217 号線はIC 完成時に整備されているか不明なため現実的対策とは言えない。既存の烏山通りの幅員の方が、時間的、ルートの、事業費的にも現実的対策案だと思う。
- ・都市計画道路補助 216 号線、217 号線が整備されたとしても、東八IC の位置から考えると甲州街道（国道 20 号）へ抜けるには遠回りになるため、より近い烏山通りを使う人の方が多いのではないかと。都市計画道路に加えて、烏山通りの整備を考えるべきである。
- ・烏山通りは狭い歩道を自転車と歩行者が利用しており、子供たちの安全を考えると新たな道路をつくるよりも烏山通りを改良するべきである。
- ・都市計画道路補助 219 号線はなぜ必要なのかという理由が明らかでない。環境施設帯に側道を設ければ十分ではないのか。
- ・都市計画道路補助 219 号線と調布都市計画道路 3・4・13 の整備理由が不明なことから、外環整備を機に見直しをする必要がある。
- ・東八IC 完成時に烏山通りに車が集中しないために、烏山通りの東八道路出口は左折禁止にするなどの規制をする必要もあるのではないかと。
- ・東八IC ができることが、都市計画決定されたときに分かっていたとすれば、都市計画道路補助 219 号線などの都市計画道路は同時に見直すべきだった。都市計画道路補助 219 号線は側道をつくることで代替できる。
- ・都市計画道路補助 129 号線と調布都市計画道路 3・4・17 号線と甲州街道の交差点、あのような複雑な交差点をつくる意味はない。都市計画道路を見直すべき。
- ・外環整備前に都市計画道路が整備されなければ、外環をつくっても機能しない。東八道路は本当に整備されるのか疑問である。整備してからでないと、外環をつくる意味がない。
- ・東八IC からどのような人が乗り降りするのかを考えると、実は利用者は多くないのではないかと。
- ・現在整備されていない中で、調布都市計画道路 3・4・17 号線（三鷹都市計画道路 3・4・11 号線）の必要性が不明である。都市計画道路を見直すべき。

3. 交通（広域交通）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・ランプの構造が複雑で、そのままIC に車が流れると、交通渋滞につながる。スマートIC を導入し、ランプ構造もシンプルにし、IC 付近の交通渋滞を避けるための工夫をする。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・インターチェンジが東八道路 1 力所だと、そこから甲州街道（国道 20 号）へ向かう車は烏山通りなどを通ることになり、今以上に渋滞がひどくなる。ジャンクションから甲州街道（国道 20 号）へ出たい人のために甲州街道（国道 20 号）側にもインターチェンジが必要である。

管理の進め方に関するアイデア

- ・東八 IC への一極集中や周辺道路の渋滞を回避するため、道路整備だけでなくソフト対策も必要だと思う。例えば、外環利用車が中央自動車道の永福町料金所や調布 IC から入る場合は外環通行料のみ払うことにすれば、東八 IC に車が集中しないですむ。

4. 環境（地下水）の課題に対応するためのアイデア

トンネル部の計画に関するアイデア

- ・工事により、地下水脈（みずみち）が分断されることが懸念される。保全対策を考えるべきである。

5. 環境（緑の量）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・緑多い地域であるが、中央 JCT、東八 IC ができるとその多くが失われることが懸念である。そうならないように復元してほしい。

6. まちづくり（まちづくり全般）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・中央自動車道の高架下を有効利用する。十分な避難空間になる。また高架下にある公園は、雨が降っても遊べるし、災害時にも人が集まることできる。
- ・高架下は避難場所として有効活用できる。そのために耐震性を充分備えることが必要である。
- ・高架下を交流の場としてほしいが、そうでなければ道路として整備する。給水タンクや駐車場などを高架下に勝手につくらないでほしい。

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・環境施設帯をきれいに管理していくために、地域の人に使われ、管理してもらえるようにする必要がある。
- ・地域分断を、現状をよくする機会と捉えるべき。この機を活かし、交流の場、子どもたちがのびのびできる場、防犯、安心して歩ける場を創出する。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・外環整備により生活道路への通り抜け車両の増加や、地域分断が懸念されることから、高齢者や車椅子も安心して移動ができる、バリアフリーの視点で道路整備、まちづくりを進める。
- ・外環の整備に伴う排水計画について心配している。最近は大雨も多くなってきているので、たとえ 10 年に 1 回、5 年に 1 回程度であっても、大雨の際にも十分対応できるような計画にすべきである。
- ・この地域は、降雨時に浸水の課題があることは明らかであるが、遊水池の設置場所も含め、降雨時に関する説得力のある説明がないことから、地域特性を理解した上で、具体的な提案をする。
- ・集中豪雨が頻繁にある昨今、周辺地域への浸水が懸念されることから、調布市などの近隣市と連携をはかりながら、説得力のあるデータを基に、浸水対策を進める。

計画の進め方に関するアイデア

- ・地域が高齢化していくことを踏まえ、車がなくても移動がしやすい、歩いても移動ができということを意識したまちづくりを考えるべきではないか。
- ・地域が分断されると、より近くに学校があっても区市が違うので外環をまたいで通学しなければならない児童、生徒が出てきてしまう。三鷹市民であっても世田谷区の学校に通えるといった、区市を越えた措置も必要ではないか。
- ・すでにコミュニティができており、祭りや町会活動なども異なっているので、なかなか難しい面もあるが、外環による分断が発生することを踏まえ、行政区の区分けを新たに考える必要もある。
- ・最も心配な浸水の問題は、長年住んでいないと理解しづらい問題である。温暖化が進み、集中豪雨がある実情にあわせ、浸水対策は時間降水量 100mm に対応できることが必須である。

7. まちづくり（地域分断）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・外環整備に伴い都市計画道路補助 219 号線を新たに整備されると地域生活が成り立たない。新たに整備するのではなく、中央 JCT 敷地内に道路を新設するなど、周辺地域への影響を小さくする工夫をしてほしい。

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・吉祥寺通りが分断されないように、三鷹都市計画道路 3・4・11 を環境緑地帯内で延ばし吉祥寺通りにつなげればよい。
- ・環境施設帯を使って車が横断する道を確保するのは難しくても、徒歩で渡れる道が確保できれば、通学の際などに利用でき、完全な地域分断を避けることができると思う。

- ・環境施設帯の有効利用として、地表部に自転車道や遊歩道を整備してほしい。
- ・都市計画道路補助 219 号線の代替として、環境施設帯に側道を設置する。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・これまでの生活道路が外環整備により広範囲にわたりなくなると生活が成り立たない。これまでの生活ができるような代替道路の整備が必要である。
- ・JCT、環境施設帯が整備されることで、周辺に行き止まり道路ができないように、代替路線の検討等、それらの対策を練る。
- ・吉祥寺通りが分断されバス路線がなくなってしまうと、バスの便があることを前提として住んでいる地域住民にとっては大きな損失になってしまう。日常生活の便を考え、バス通りとしての機能を確保する必要がある。
- ・外環整備によりバス通りである吉祥寺通りが分断されてしまうが、通学・通勤でバスを利用する住民のために、代替ルートをつくり、バス通りの機能を確保する。

PIの進め方に関するアイデア

- ・将来、交流の場として、「このような場の創出がある、このようなものができる」と具体的な案が示されれば、近隣住民は我慢できるはず。今よりもっとよくなるということを具体的に提示してほしい。

8. まちづくり（土地利用）の課題に対応するためのアイデア

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・烏山 8 丁目と 9 丁目はこれまであまり地域間の交流がなかったが、外環によって分断される可能性が出てきたことを契機に、絆が深まるよう、環境施設帯を利用した地域交流の場をつくりたい。
- ・環境施設帯を地域住民が利用できるようにしてほしいと考えているので、利用方法を提案するために、使える場所や時期を教えてください。
- ・環境施設帯の地域への開放を提案したいが、世田谷区は面積的にあまりかかっていないため、意見が反映されず、利用できる面積も限られるのではないかと危惧している。環境施設帯は国、都、区市のどこの所有で、管理はどこがやるのか気になる。
- ・環境施設帯を、子どものスポーツ活動などに利用し、地域や親子のコミュニケーションの場として有効活用したい。
- ・環境施設帯を使った地域交流の場を作ることで、将来的に地域住民の資産になるようなよいものを残したいと思っている。
- ・環境施設帯を地域で利用し管理もしていくために、里親制度のように国から区、市に管理が委託できるようにするとよい。
- ・環境施設帯をネットで囲うとゴミの投げ入れで荒れてしまうと、住民が清掃をしたくても中に入

入ることもできないため、地域の人が管理できるようにネットで囲うべきではないと思う。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・烏山通りを拡幅するにしても、片側はすでにマンションが立ち並び、もう一方も道路後退できるのか疑問である。拡幅するのなら、沿道の建築規制を早い段階から行う必要があるのではないか。

9. 安全・安心（交通安全・治安）の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

- ・烏山通りは、徒歩や自転車を利用する児童・生徒が多く、車が増えれば交通事故の発生が強く懸念される。安全確保のための対応策が必要である。

10. 工事中（工事中の安全性）の課題に対応するためのアイデア

工事の進め方に関するアイデア

- ・工事中は安全を第一に考えた工事を進め、周辺地域の生活道路にトラックが侵入したりしないようにする。
- ・工事中は周辺地域の生活道路にトラックが通過することが心配であるために、通学路を避けた工事車両のルートを予め決め、地域に知らせることで、安全の確保をはかる。
- ・工事期間がわからないと、地域住民に不安や不満が出るが、スケジュールを予め明確にすれば、住民もが、我慢ができる。

11. 用地・補償の課題に対応するためのアイデア

用地・補償の進め方に関するアイデア

- ・外環整備をしたことで、集中豪雨時に外環トンネル内のみならず、周辺地域の浸水も懸念される。地域へ浸水が起きた時に、何らかの補償をする。
- ・住宅などの建築中に外環工事による被害が出たときのクレーム補償の対応がどのようになるか心配である。クレーム補償に対応してほしい。
- ・都市計画図で見る限りでは、都市計画線が敷地にはかかっているが建物にはかかっていない状況である。敷地の一部だけ削られると車の置き場や車の出入りができなくなる。高齢なので早急に今後の対策を考えたいが、計画線が確定ではないので対策が立てられない。
- ・外環整備に伴い都市計画道路補助 219 号線が整備されると、日本女子体育大学の敷地が分断され、大学設置基準の、敷地面積等の基準を満たすことが難しくなり運営上問題となる。補償制度を早急に示してもらい、代替地を確保したい。

- ・計画のために痛みを伴うときは、完成後に今以上のすばらしい将来像が見えれば、人は我慢するものである。また、補償面を先送りにするのではなく、具体的な提示をする。

12. 計画検討の進め方（計画検討全般）の課題に対応するためのアイデア

調査の進め方に関するアイデア

- ・換気所が十分に機能しているか、継続的にチェックするために、将来にわたって排出ガス調査データを収集し解析してほしい。その解析結果も正確に情報開示し、他の場所の計画にも活用してほしい。
- ・外環整備により、多摩川から流れてくる地下水脈が切れ、地下水が涸れてしまうことから、正確なデータ収集をし、調査をした上で対策を練り、地域へ公表する。
- ・周辺地域の河川はほとんど暗渠であり、現時点でも浸水被害が多いことから、外環整備により、さらに同様の被害が懸念される。地下水脈の調査をすることが必要である。

PIの進め方に関するアイデア

- ・住民は、地域が今以上によくなるということが具体的に示され、納得できれば、多少の権利関係は我慢できるものである。中央自動車道の計画時とは異なり、今回はせっかくPI方式で進めているのだから、やるのであれば、早く具体的な案やメリットを提示し、進めるべきである。
- ・計画のために痛みを伴うときは、完成後に今以上のすばらしい将来像が見えれば、人は我慢するものである。また、補償面を先送りにするのではなく、具体的な提示をする。
- ・外環に接する住民には当然迷惑ではあるが、地域のためになり、そして自分たちにも何らかのメリットがあれば、我慢するものだ。整備すると地域のためになるという案が具体的に提示されないことへの不満があるので、整備後の地域の将来像の具体的なイメージを明確にする。
- ・都市計画決定がされている以上、前向きに計画を進めてよいと思うが、地域に何らかのメリットが生まれることを具体的に提示し、地域が納得した上で計画を進めることが必要である。中央自動車道の計画時のように地域にメリットがない状況では、今回は計画が進まないだろう。

13. 計画検討の進め方（意見反映）の課題に対応するためのアイデア

計画の進め方に関するアイデア

- ・検討会終了後、今後のスケジュールなどの情報共有の場がなくなること、住民には情報が無い、あるいはあっても行政からの一方的な情報になるため、今後も情報共有の場や意見交換の場をつくり、それらをシステム化する。
- ・工事中、供用後など、何か起きたときにどこへ言えばよいのか分からないことから、外環に伴う問題についての「すぐやる課」を設置し、窓口を一本化する。
- ・今後の進め方が重要である。住民の意見に対し、行政が返事をするのが次のステップである。明確な説明をし、具体的な案を出すべきである。

- ・今後は、進捗の段階ごとにやりとりの場を設ける。段階ごとに、住民の意見に対し行政の提案を出す。また、住民のアイデアに対し可能かどうか、できない場合はその理由も説明する。その際にいつ、どこまで進めるのか、スケジュールも示す。
- ・5ヶ月間も検討会を続け、意見や愚痴、懸念を言うだけで終わりでは不安を助長させるだけ。懸念に対して具体的な取り組みの提示がないので不安になる。地域へ明快に返答、説明をした上で進めるべきである。
- ・返答に時間をかけすぎであり、意見を言うだけ言わせ、意見を聞いたというアリバイづくりを行い、そのまま進むように見える。地域へ明快に返答、説明をした上で進めるべきである。
- ・今後は、テーマを絞って進める。例えば、地域分断と有効利用、大気、水など、テーマを設けて、建設的な意見を言う場にする。
- ・住民は不可能なことをやれとは言っていない。段階ごとに、住民の意見に対し実現できるのか否か、できない場合はその理由を明らかにしてほしいと言っているだけ。住民のアイデアに対し、実現する可能性があるのかどうか早く知りたい。
- ・住民ひとり一人が何を望んでいるのか、テーマごとにアイデアや意見があるので、それを把握する。多数決で決めるのは疑問である。テーマごとに討議をすれば、関心のあることを話することができるので、メンバーも拡大し、参加する人も増える。
- ・松葉通りと烏山通り周辺が雨の時、水が溜まりパンクしてしまうが、なかなか改善されない。現在、地域と行政の信頼関係が崩れている。外環についても日々のやりとりができる「すぐやる課」を設置する。
- ・今後の進め方について、前向きな議論を行う。住民の意見を少しでも取り入れてもらいたい。基準値を数値として明確にする。住民の意見に対して、まず行政は具体的な返事をする。
- ・地域分断を避けるために、周辺道路や接続道路について地域で考えるべきということだが、具体的に考えたところで、自分たちの意見をどこまで採用してくれるのか懸念がある。最終的にこちらの意見を採用しないのであれば、「行き止まり道路はつくらない」といった最低限の意見を踏まえて、行政側から地域へ具体案を提示するべきである。

PIの進め方に関するアイデア

- ・懸念と愚痴の繰り返しである。その段階はここで終了し、具体的な議論に入り行政に返事をしてもらうように進める。
- ・今まで十分に苦しんで、悩んで心配ごとと懸念を出した。この後は明るい前向きなアイデアや意見をだし、議論をしたい。

14. 計画検討の進め方（情報の提供）の課題に対応するためのアイデア

PIの進め方に関するアイデア

- ・換気所の高さが15mでは低すぎ、風が強いときなどそのまま周辺地域に排気が下りてくるのではないのか。どのような方法で高さを決めているのか。
- ・大深度構造物の耐震性を十分に検討しているのかという住民の心配に対し、行政は耐震基準な

どの情報を住民に解るよう説明し公表する。

- ・最も心配な浸水の問題は、長年住んでいないと理解しづらい問題である。温暖化が進み、集中豪雨がある実情にあわせ、浸水対策は時間降水量 100mm に対応できることが必須である。
- ・データ、数値について、環境変化の著しい実情に即した基準値へ見直すべきである。
- ・具体的数値ができれば予算も決まるものである。行政は予算を決めてから、それにあった計画内容にするようだが、最初にデータ、基準値を決めた上で計画内容を決めるべき。
- ・阪神淡路大地震で高速道路がつぶれることは分かっていた。信頼性がないのだから、裏づけとなる具体的数値が提示されないと検討することができない。これまでの説明だけでつくられてはたまらない。
- ・道路の補強方法について疑問がある。道路が倒れた時に地域分断される中で、どのように処理、対応をしていくのか疑問である。
- ・方向性だけでなく、交通量（混雑状況の把握）、耐震、降水、緑など、実情に即した具体的数値を出すことで全計画が決まり、進めることができる。
- ・日本女子体育大学を通る、都市計画道路補助 219 号線はどうなるのか、関係者は補償も含め不安である。外環の話だけでなく、周辺の計画、現状を説明する場が必要である。
- ・出したアイデアについて、表現が「～の確保」、「～の実施」と体言止めの書き方である。実行するの可否かわからない書き方である。主催者側は住民が納得できる明快な答えかたをする。